

1. 本時の指導

(1) ねらい

前回、神谷美恵子さんの生涯から人間としての務め（精神科医としてのハンセン病患者とのかかわり）を学んだが、毎年岐阜県から配布される冊子「君はハンセン病を知っていますか？」を活用して、ハンセン病の歴史、そこから生まれた差別と偏見を学ぶ。そして、ハンセン病に対する正しい知識のもと、差別と偏見を無い社会づくりを目指す。

(2) 指導要領に基づく道徳の内容

2－(2) 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。

4－(1) 法や決まりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして社会の秩序と規律を高めるように努める。

(3) 展開

学習活動と主な発問	教師の支援
導入 前回学習した神谷美恵子さんの人間としての務めを考えさせる。	自分がしたいことを 10 以上(20 まで)プリントに書かせるが、自分が人生の中で求めているものがあるか考えさせる。単なる欲望ではないかを考えさせる。
展開 1 1 テキスト「君はハンセン病を知っていますか？」を輪読しながら、本書の目的（岐阜県知事の思い）を伝える。 2 過去のテキスト（平成 19 年、23 年、25 年、27 年）を比べることで、表現の違い（元患者＝療養所入所者、表記されている数値の劇的な変化に気付かせる。また、その理由を考えさせる。 3 気がついたことを発表させる。 4 プリント配布（別紙参照）	<ul style="list-style-type: none"> なぜこのテキストが知事から出されているかを確認する。 なぜ表現の変化があったのか、ハンセン病の方々の立場から考えさせる。 平成 19 年：4000 人 23 年：2600 人 25 年：2200 人 27 年：1850 人が表すものは何か考えさせる。 プリント 1 を配付。答えをテキストの中から探させる。
展開 2 5 DVD 視聴（NHK ニュースで特集された元ハンセン病患者の 68 年ぶりの帰郷ドキュメント紹介） 6 テキストに載っている元患者さんの手記を読ませる。	<ul style="list-style-type: none"> 元患者さんの生の声を聴かせることで、過去の差別、偏見体験を学ばせる。
7 まとめ 本時の感想を記入	<ul style="list-style-type: none"> 感想を書かせることで本時をまとめさせる。

2. 資料 (自作プリント1)

ハンセン病について

道徳資料

4年 ___組 ___番 名前 _____

1 「君はハンセン病を知っていますか?」 (P12~22)を参考に、下の空欄を埋めてください。

① 約 1850 人の元患者が、故郷に帰れない理由は?

(_____)

② 私が持っている資料では、元患者の数は、約 4000 人となっています。(平成 14 年現在)しかし、現在は約 1850 人とあります。その理由は、何だと思えますか。

(_____)

③明治以来、ハンセン病療養所の職員でハンセン病になった人は何人? (_____)人

④ハンセン病は完治する病気ですか。 今では確実に (_____) ようになりました。

⑤ハンセン病が差別されてきたのには、三つ大きな理由があります。それは何ですか。

(1) 一見して、(_____) となったから。

(2) 19 世紀末まで、(_____) と誤解されていた。

(3) 国民の間に「 _____ 」といった

誤った恐怖感が持たれるようになってしまった。

⑥ハンセン病の問題に向き合って、私たちにできることは何ですか?

(1)

(2)

(3)

2 「ハンセン病療養所入所者らの証言」 P. 18 から証言(特に P. 30 の手記)を 2. 3 選び、感想を書いてください。 or DVD の感想を書いてください。

3. 生徒の感想（抜粋）：2組

- 1、ハンセン病の人が国の政策によって苦しめられてきた悲しみは、計り知れないものだと思います。それに完治した今でも故郷に帰れない人が大勢いるのは、偏見を恐れたり、今後の不安があるためだと分りました。私はハンセン病はとても昔の話だと思っていました。しかし、最近のことだったので驚きました。私もしそのような人に出会ったら、その時は笑顔で接しようと思います。
- 2、「光明園が人生の終着駅」という題の手記を読んで、今の僕たちは何不自由なく暮らせているが、故郷へも帰れない人がいるということを知り、日頃不満ばかり言って生活しているのではなく、日々感謝して生活していきたいと思いました。
- 3、私は、「泣いてばかりいた若いお母さんの顔」を読みました。ただ駅にいただけなのに、ライ患者だと分ると「近寄るな」言われることの辛さを、読んでみて感じました。若い女の人は、らい病になったことや自分が産んだ赤ちゃんのそばにいられないことが自ら命を絶つことになったと思います。誤りとはとても怖いものだと改めて感じました。
- 4、ハンセン病に対しての、人間として自分たちの誤った理解と勝手な差別によって、人生のほとんどを失ってしまい、とても申し訳ないことをしてしまったと思った。そのような人たちでも今、前を向いて生活をしている人もいますので、自分たちのちっぽけな悩みなどに比べものにならないものだと思うので、自分も前を向いて生活していきます。
- 5、私は「たとえ産んでも子育ては許されなかった」を読みました。ハンセン病のせいで差別され、周囲から偏見を持たれて生活しているということは前回の道徳の時間で知りましたが、子供を育てることまで許されていなかったことを知って、とても胸が痛くなりました。女性であればほとんどの人が自分の子供を産み、育てたいという気持ちがあると思います。それができないことはどんなに悲しいことかと思いました。
- 6、らい病患者への差別は凄くひどいものだと思います。人間としてみてくれず、患者の気持ちなどどうでもよい様な対応はいけないと思いました。偏見の目で見ている人は自分は関係ないと思うのではなく、たまたま自分じゃなかっただけと思い、優しく接するべきだと思います。自分は故郷に帰ることができることに感謝しようと思いました。
- 7、DVDを見て、ハンセン病に罹った人がいかにこれまで苦しい思いをしてきたかということが痛いほどよくわかりました。今ではハンセン病は恐ろしい病気ではないということが分かったんだからもっと世の中からハンセン病に対する偏見と差別が消えてほしいと思いました。
- 8、国がそんなひどい政策を取っていたことを知らなかった。結婚しても子供は産めないし、平等な扱いではなかった。この事実を知っていない人に話をし、偏見を無くしていきたい。
- 9、日本にもこんなことがあったんだなあとまだ療養所にいる方もたくさんいるのに、私には遠くのこのように思っています。差別とか偏見とか、国も良かれと思って政策をしたのかもしれないけど、その人たちの心の傷は一生消えないし、私たちが完全に理解することもできないと思いました。
- 10、僕は「泣いてばかりいた若いお母さんの顔」という手記を読みました。なんで絶対治る病気なのに、人は差別するのでしょうか。少しでも自分と手や顔が違うだけなのに差別をするのでしょうか。僕は将来こういった差別などを受けている人を助けてあげたいと今日の授業で思いました。
- 11、元ハンセン病の人の話がとても一言ひと言に力が入っていた。故郷に帰りたくても帰ることができないのはとてもつらいことだと思う。
- 12、ハンセン病は差別されるほどの病気ではないと分りました。DVDを見て、68年ぶりに故郷に帰ることができて本当によかったと思います。私がハンセン病だったら本当につらいです。早く全国の人にハンセン病について知ってもらいたいと思います。今、私が故郷で暮らせていることは幸せだと思います。
- 13、「世界で一番遠い場所」は距離としては近いのに、思いとしては最も帰りにくいのが自分の故郷であるが、もし自分であったならば、本当に孤独であろうし、生きる気持ちを失いそうだ。
- 14、ハンセン病にかかって、人生の半分以上を自由に暮らすことができない人が今もたくさんいると思うと本当に悲しくなります。ひどい差別を受けて、家族とも友達とも離れて暮らさなければならないと言うのはとてもかわいそうです。今、自分はこの暮らしを当たり前と感じてしまっているけど、当たり前ではないので感謝したいです。
- 15、DVDを見て、平沢さんは、「自分には血がつながった親や兄弟はいても、肉親はいない」や「自分の故郷は最も遠い場所

だ」と言っていて、治すことができる病気なのに今まで近くいた人が自分のことを病気の菌のように扱うのはとてもつらいことだと思いました。これからは、ライ病の差別の意識が薄い私たちが変えていくべきだと思いました。

- 16、 家族から見捨てられ、本当に一人で生活をしてきたということを考えると、差別はとてもひどいものだと思いましたが。また、故郷に帰れないなんて嫌だと思いました。
- 17、 ハンセン病になりたくてなった訳でもないのに、周りからひどい扱いを受け、辛い思いをたくさんして強い人だと思いました。また、故郷に戻るの難しく、世界で一番遠い場所と思うほど、長い療養所生活を送ってきたことに驚きました。なので、私には当たり前の”故郷“を大切に、周りの人に感謝して生活していかなければならないと思いました。
- 18、 ハンセン病は何も害はないのに、皆が大声で「ハンセン病患者が通るぞ」と言い、避けられてきた。家族にも捨てられ、日本にもこんな時代があるのに驚き怖さでいっぱいになりました。今も地元に戻れない人は帰ってもらいたいです。ハンセン病は害がないと日本中みんなが知る日が来てほしいです。

生徒の感想（抜粋）：3組

- 1、 ハンセン病が正しく理解されていなかったためにこれまで差別を受けていたのは間違いだと思った。今は理解されているが元患者が里帰りをするのができない環境を作り出しているから、それをなくす必要があると思った。
- 2、 自殺者までいたことに心が痛くなった。今でも偏見により、故郷に帰ることができない人がいて、家族と同じ墓ではなく、ハンセン病患者の納骨堂に眠っていることも、とても悲しいと思った。
- 3、 どの人の手記にも家族や夫などとの別れが辛いということが書いてあった。ある日、突然療養所で死を待つだけの生活となったら耐えられないと思う。今もハンセン病に対する偏見や差別があるが、自分はそのようなことはしない。
- 4、 私は「たとえ産んでも子育ては許されなかった」を読んで、悲しくなりました。私はこれを読んで、ハンセン病にかかると自分の子供が産めなくて、産んだとしても自分は育てることが出来ず、その子供は差別を受けなくてはいけないことを知って、もし自分だとしたらすごく苦しいだろうなと思いました。また、DVDを見て、ハンセン病に罹っても周りの人が差別しない社会になってほしいと思いました。
- 5、 「今も故郷のレンゲ畑の夢を見ます」を読んで、病にかかっているのは姉だけなのに妹までもが無理やり療養所へ行かされるのはひどいと思いました。さらにDVDで言っていた「世界で一番遠い場所」と言うのは印象に残りました。日本国内だというのにそんなふう感じられるほど隔離されていたんだと感じました。
- 6、 「今も故郷のレンゲ畑の夢を見ます」という話で、ハンセン病に罹っただけで、その家族（妹）までもが療養所行きになってしまって、おかしいと思った。差別などなくしたいと思った。
- 7、 昔はハンセン病が不治の病だと恐れられて差別が行われてきたが、今は確実に治せる病だし、感染する確率は低いので差別する必要はないと思う。一般の人と同じように生活を送ってもらいたい。
- 8、 DVDを見てとても胸が苦しくなった。まさかこんな病気があって、今でも故郷に帰れない人がいるなんて…。自分の周りにはハンセン病の人がいないから他人ごとと考えてしまうけれど、それが家族や自分自身だったら、どれだけ辛いかわからない。
- 9、 68年間平沢さんは療養所で隔離されていて、今は完治しているのに隔離されているのもおかしいことです。もしそれが自分の親だったら、早く帰ってきてほしいと願うと思います。今、普通の生活ができることに感謝します。
- 10、 ハンセン病は治るのに誤解されて、今もなお同じように外に出ることができない人がいるのは悲しい現実だと思いました。出来ることなら、少しずつでも戻れる方が増えればいいと思いました。
- 11、 ハンセン病患者の人たちがどれほど厳しい差別や偏見の中で生きて来たかということをとっても思い知らされた。今の人たちは終わったことのように思っているが、逆の立場だったらと考えるとそのようには思えないと思う。ハンセン病患者さんたちの年齢は80歳を超えている。あと何年生きられるかわからないけど、残り少ない時間の中で少しでも過去の償いが出来ればと思った。
- 12、 DVDを見て、ハンセン病に罹った人は、それだけで辛いのに故郷も帰れず本当につらい人生だと思いました。また、本名を隠してずっと療養所で暮らしていたにもかかわらず、前だけを見て日々歩いて生きていくところが強い人だと思いました。

13、 誤解のせいで、何十年も隔離させられて生きてきた患者は本当に気の毒だと思った。

14、 ハンセン病を誤解していた世間のせいで、ハンセン病患者の方が差別され、人として扱われていなかったのも、なぜもう少し早く対策を取らなかったのだろうと思った。自分ももしハンセン病元患者や患者に会ったら、介助などをして誤解を解いていきたいと思います。